

経営(継業)のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方⑤

まん の う いっ し ん 万能一心

早川浩士

有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし
経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。
http://www.hayakawa-planning.com
ブログ: http://amebio.jp/hayakawa-planning/

「万能足りて一心足らず」

介護保険は、施行から丸10年が過ぎて、11年目の春を迎える。

当時20代の職員は30代、30代は40代、40代は50代へと、介護職の世代交代が進んだ。

各事業所では介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士などの有資格者も増えてきた。

「介護の質」を上げるための体制が整いつつある。

島津いろは歌の一首に「万能も一心とあり事ふるに、身ばし頼むな思案堪忍」がある。

あらゆること(技・芸)に熟達しているものの、心に誠、つまり真心が欠けているようではならぬ。いかに万能に達しようとも、思い遣るといふ一心が大切であるとの戒めを説いたもので、「万能足りて一心足らず」とか、「万能一心」などとしても知られる。

すべての物事に効能があることと、さまざまな物事に巧みなことなどの意味を含んだ「万能」は、科学万能の時代、スポーツ万能選手などではばんのう^{ばんのう}だが、この場合は、まんのうと読まなければならぬ。

利する心がけ、つまり利己か利他かを履き違えるようでは、資格を得たところで「介護の質」が容易に上がるとは考えにくい。

「利心、休せよ」とは、茶道の祖・千利休の名前の由来だが、自らの才能に奢らず、老古錐^{らうこすい}*1の境地を目標とせよの意がある。

初めは鋭い切れ味の錐も、年月を経るにつれて先は丸くなり、やがて切れ味も落ちていく。

心を求められているのは、茶道ばかりではない。

「今の仕事は能力に見合っていると思いますか」*2

丸10年を振り返って、次の設問に目を通してほしい。

問1 今の仕事は、自分の能力に見合っていると思いますか。また、今の職場でこれからも働くことでキャリアをつくれると思いますか

問2 今の職場の経営理念、使命感、目標などを理解して行動していますか

問3 今の職場の経営理念、使命感、目標などに沿った仕事をしていますか

問4 今の職場を知人に勧めるよ

うに勧めることができますか

問5 今の職場で何を期待され、どのような成果を上げることが求められているのかを理解していますか

問6 そのためには、ご自身が何を経験すべきであるかということをご存知ですか。また、具体的な目標を立てて、それに向かってチャレンジしていますか

問7 ご自身が自らを変え、このことができる行動の源泉を持っていますか

問8 それは今の職場で培われたものですか

問9 5年後、そして10年後、何をしたいのかということをお話いただけますか

問10 それは、ご自身の希望であり、ワクワクするものですか。全項目に対する自己評価はどうですか。

介護従事者の就労環境は、処遇改善交付金の給付や介護報酬の増額などで解決を図ろうとする動きが目覚ましい。だが、未来に光明を標すなら、10項目への取り組みこそ、事業者自身の課題ではないだろうか。

*1 老古錐: 使い切った先が丸くなった錐のこと
*2 『早川浩士の常在学場』筒井書房、補講「三十而立」から